

平成21年度

紀要

仙台市中中学校長会

目 次

巻頭言・・・・・・・・仙台中中学校長会長	青沼 一民	1
平成21年度仙台中中学校長会活動方針・・・・・・・・		2
1 各部の活動概要		
(1) 総務部・・・・・・・・		3
(2) 研究部・・・・・・・・		4
(3) 教育課題部・・・・・・・・		5
(4) 研修部・・・・・・・・		6
(5) 人事部・・・・・・・・		7
(6) 情報部・・・・・・・・		8
(7) 行財政部・・・・・・・・		9
(8) 生徒指導部・・・・・・・・		10
2 研究調査等報告		
(1) 研究部・・・・・・・・		11



<巻頭言>

中学校長会の在り方

仙台市中学校長会長 青 沼 一 民

平成21年度のスタートと同時に全世界を恐怖に陥れた新型インフルエンザの流行により、日本でも相当の警戒と過剰とも思える反応と予防対策に終始した一年であったと思います。

仙台市内でも夏季休業中の後半から流行の兆しが見え、9月以降12月までの約3か月の間に殆どの学校で罹患による学級閉鎖、学年閉鎖、そして学校閉鎖等で最低でも5日間の教育活動の停止により授業、教育活動の中止及び延期によって本来教育環境の充実を図る予定が厳しい状況に置かれました。その結果、授業時数の回復措置等により冬季休業中の授業実施、週授業時数の30～32時間の実施によって、年度末までの季節性のインフルエンザによる学級閉鎖、学年閉鎖による授業時数の確保等に注意を図り、中3の高校受験対策による予防接種の取り扱いなど様々な形で大きく影響を受け、教育活動を推進する上でも重大な出来事でありました。

さて、今年度は新学習指導要領の移行措置の初年度に当たり、各学校でも改訂の基本方針である三つの方針

- ・ 教育基本法改正等で明確となった教育理念を踏まえ生きる力を育成すること。
- ・ 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること。
- ・ 道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体を育成すること。

これらを踏まえ、個性を尊重しつつ能力を伸ばし、個人として、社会の一員として生きる基盤を育てることを目指し、教育課程編成の充実発展を図り、具体的な教育活動の方向性を見いだして特色ある学校づくりに励んできたと思います。

移行期の初年度として年度末に各学校が教育活動に対する評価・分析を行い、学校評価のシステムを構築しながら課題の整理と今後の方向性を模

索して、より良い改善策を打ち出す必要があります。

本校長会は、宮城県と分離独立してから3年が経過し、65校が結束して今日的な教育課題の解決と教育活動の充実発展のために、校長会としての機能をフルに発揮できるように進めることであります。

校長会の会務内容の精選と課題等を洗い出す作業に着手しており、大きな課題として校長会関連の事業や各種団体・関係機関等への参加の形態、また、各部の教育課題に関する調査・研究等の見直し、中体連関連の検討等について、具体的にスケジュール作業に基づき、ここ1～2年以内に議論して結論を出して、決して課題を先送りすることなく積極的に進める必要があります。

特に、修学旅行、校外学習等の在り方、進路指導上の諸問題、給食関係、危機管理研修の在り方、学校安全教育・健康教育の推進、学校評価関係、特別支援教育の充実等を校長会で議論を掘り下げて、より効果的にしなければと思います。

次に、大都市中学校長会連絡協議会については、大都市特有の諸問題に関する議論が年々活発になってきており、学校経営、学校評価、人事管理、教育課程、個に応じた指導、開かれた学校等様々な内容が交わされ、すぐに実践に役立つ内容になっており、今後、多く参加できる態勢を進めなければなりません。

今後、様々な課題、問題点を整理して一步一步向上できるよう会員の皆様と一緒に前進したいものです。

最後になりますが、この一年間の会員の皆様のご協力に感謝を申し上げます。

平成21年度仙台市中学校長会活動方針

今日、わが国では、国際化、情報化などによる諸課題に対応するとともに、真に豊かで活力ある社会の実現を目指して、大規模な改革が進められている。

教育基本法の改正及びこれを受けた教育関連法規の制定に加え、新学習指導要領の告示、教育振興計画の策定等、教育改革が進行し、今までにない重要な局面が続いている。

この時に当たり、わたしたちは中学校教育に課せられた責務と市民の期待を深く認識し教育改革の理念を踏まえ、「生きる力」の育成と新しい時代に求められる学校づくりを推進しなければならない。わたしたちは、校長としての職責を一層自覚し、次の重点項目に基づき、本市中学校教育の充実・発展に努める。

1 仙台市中学校長会の機能を一層充実し、活動の活性化に努める。

- (1) 教育改革や経営能力向上のための研修・協議の充実
- (2) 宮城県、小学校、高等学校の校長会との連携強化
- (3) 各部における諸活動の充実と関係諸機関等との連携強化
- (4) 市民・保護者への活動内容等の積極的な情報公開の推進

2 創意ある教育課程を編成し、確かな学力の向上と個性を生かす教育の推進に努める。

- (1) 新学習指導要領移行措置に基づく特色ある教育課程の編成と実施
- (2) 基礎学力の確実な定着を図る指導と評価の改善
- (3) 問題解決能力、創造力を育てる指導の工夫
- (4) 「豊かな心」と「健やかな体」の育成の工夫・改善

3 当面する教育課題の解決に努める。

- (1) 豊かな心の充実を中核とする生徒指導の推進
- (2) いじめの早期発見といじめを許さない学校体制の確立
- (3) キャリア教育（自分づくり教育）の充実
- (4) 安全・安心な学校づくりを目指しての家庭及び地域社会との連携強化
- (5) 学校改善につながる学校評価システムの工夫
- (6) 教職員の適正な評価を通しての資質向上と教育実践に基づいた現職教育の充実
- (7) 特別支援教育の充実
- (8) 全県一学区制への対応と高等学校入学者選抜の改善に対する提言

4 多様な教育活動を推進するため、教育条件の整備・充実に努める。

- (1) 主幹教諭の配置拡大と教職員定数の改善
- (2) 免許外教科担任の解消と非常勤講師制度の拡充
- (3) 人事異動における地区制等の早期の見直し
- (4) 施設・設備の充実と教材備品の整備

5 教職員の職責に見合う待遇改善の実現に努める。

- (1) 「義務教育費国庫負担制度」及び「人材確保法」の堅持
- (2) 諸手当を含む給与体系の改善

各部活動の概要

総務部

部長 大内 吉基

1 活動目標

仙台市中学校長会の活動方針や宣言・決議を踏まえ、様々な要望や提言の取りまとめを行い、活動計画全体及び各部間の連絡調整を図りながら、会の能率的かつ円滑な運営に努める。

2 活動内容

(1) 各部会の諸機関等への要望や提言をまとめ、その窓口となる。

① 仙台市教育委員会等への要望書の作成及び渉外に関する事項

② その他の事項

(2) 年度の活動目標・行事予定・事業計画を立案する。

(3) 例会や各種会議等の準備や計画・運営を行う。

(4) 各部会間等の綿密な連絡調整を図る。

(5) 福利厚生や親睦会に関する計画や準備を行い、実施する。

(6) 市中学校長会総会要項を編集し発行する。

(7) 中高連絡会に関する事項

(8) その他

3 活動の概要

(1) 仙台市中学校長会歓送迎会〔H 白萩〕
4月 3日(金)

(2) 第1回総務部会〔教育センター〕
4月14日(火)
部員顔合わせ、副部長の選出、活動目標、活動計画、係分担等についての検討等

(3) 第2回総務部会〔H 白萩〕
4月27日(月)
仙台市中学校長会総会の準備・打合せ等

(4) 市教委各課への中学校要望書取りまとめ
6月30日(火)

(5) 臨時総務部会〔H 白萩〕
7月 2日(木) 要望書素案の検討

(6) 「小中学校教育の充実に関する研修会」
8月 3日(月) 〔教育センター〕
中学校主担当(小・中学校長会役員出席)

(7) 市教委への要望書提出〔上杉分庁舎〕
8月31日(月)
中学校長会話題提供「地域と歩み、特色ある学校づくりのための条件整備」
中学校主担当

(8) 中高(公)連絡会〔H 白萩〕
9月 8日(火)
高校当番

(9) 中高(私)連絡会〔ガーデンパレス〕
11月4日(水)
高校当番

(10) 小・中学校長会合同懇親会〔H 白萩〕
11月27日(金)
小学校当番

(11) 全国中学校長会福島大会(兼東北大会)
〔郡山ビックパレット〕
10月29日(木)～30日(金)
交通、宿泊等連絡調整(53名参加)

(12) 大都市中学校長会千葉大会〔千葉市〕
11月10日(火)～11日(水)
交通、宿泊等連絡調整(8名参加)

(13) 県・市中学校長会研究協議会栗原大会
11月 6日(金)
連絡調整(原則全員参加)

(14) 県・市連絡協議会〔H 白萩〕
① 5月22日(金)
② 9月25日(金)
③ 1月29日(金)

(15) 第3回総務部会〔H 白萩〕
H 22 3月 3日(水)
年間の反省と次年度の計画等

(16) その他(各例会時における準備等)

<総務部員>

部 長	大内 吉基	(長命ヶ丘中)
副 部 長	相場 啓司	(上杉山中)
事務局長	佐藤 輝子	(五城中)
部 員	末 武	(東華中)
部 員	山田 恵嗣	(長町中)
部 員	伊藤 順子	(西多賀中)
部 員	工藤 洋	(中野中)
部 員	首藤 眞弓	(秋保中)
部 員	阿部 英伸	(南中山中)

研 究 部

部長 國 井 恵 子

1 活動目標

中学校教育の主に教育課程に係る諸課題，教師力の向上等についての調査研究を行い，その解決のための方策を探る。

2 活動内容

(1) 平成21年度宮城県中学校長会研究協議会 栗原大会に向け，教育課程に係る現状分析と諸課題について調査・検討し，発表する。

テーマ「創造的で特色ある教育課程の編成と実施」

(2) 平成22年度東北中学校長会研究協議会での発表に向けて調査・検討を重ね，まとめる。
テーマ「教師力の向上を目指した研修の充実」

3 活動概要

(1) 4月14日（火）第1回部会

- ・活動目標，活動内容の確認
- ・副部長の選出

(2) 4月30日（木）第2回部会

- ・今後の研究方針の確認
- ・アンケート項目の検討

(3) 6月2日（火）アンケートの実施

- ・創造的で特色ある教育課程の編成と実施について
- ・教師力の向上を目指した研修について

(4) 6月30日（火）第3回部会

- ・アンケートの集約と今後の方向性の確認

(5) 7月29日（水）第4回部会

- ・栗原大会の発表準備
- ・教師力に関する研究グループの編成

(6) 8月4日（火）第5回部会

- ・大会要項原稿の検討

(7) 8月25日（火）第6回部会

- ・大会要項原稿の最終点検

(8) 9月8日（火）第7回部会

- ・大会補助資料の作成分担

(9) 10月7日（水）第8回部会

- ・大会補助資料作成と点検
- ・分科会運営についての検討

(10) 10月23日（金）第9回部会

- ・大会補助資料の最終点検
- ・分科会運営についての最終確認

(11) 11月6日（金）

宮城県中学校長会研究協議会・栗原大会にて研究発表

○発表題「創造的で特色ある教育課程の編成・実施の状況」

－教育課程に関する調査結果の分析を通して－

○発表者 平 昇（鶴谷中校長）

(12) 12月2日（水）第10回部会

- ・栗原大会の反省について
- ・東北大会発表に向けた研究の方向性及び日程の確認と役割分担。

(13) 1月15日（金）第11回部会

- ・東北大会発表に向け，アンケート結果の分析と研究内容の検討
- * 学校課題と校内研修の関連等

(14) 2月4日（木）第12回部会

- ・21年度の反省と22年度の計画
- ・東北大会に向けた研究のまとめ

〈研究部員〉

部長	國井 恵子	(広瀬中)
副部長	末永 精悦	(八木山中)
部員	加藤 純一	(西山中)
部員	平 昇	(鶴谷中)
部員	千葉 奈緒子	(桜丘中)
部員	庄子 明宏	(高森中)
部員	佐藤 邦宏	(田子中)
部員	須藤 由子	(南吉成中)
部員	曳地 泰博	(将監中)

教育課題部

部長 伊藤 芳郎

1 活動目標

多様な教育改革が進む中、当面する教育課題を直視して解決すべき調査研究を行い、学校運営に資するよう提言する。

2 活動内容

- (1) 平成21年度仙台市中学校長会活動方針3「当面する教育課題(1)～(8)」をうけて、仙台市における喫緊の今日的教育課題の分析と検討を行う。
- (2) 課題の絞り込みを行い、部員相互による協議を重ね提言をまとめる。
- (3) 課題に関して必要な実態調査を行い、検証資料とする。

3 調査研究テーマ

高等学校改革が進む中、今年度から公立高校入学者選抜検査の学区制が廃止され、全県一学区の実施の初年度にあたるので、本年度の調査研究テーマを緊急課題である以下の二つとした

- ・南北学区間の志願者の動向と今後の推移
- ・全県一学区制に伴う各校の進路指導の課題

4 活動計画と経過

宮城県中学校長会と連携しながら、全県一学区制に伴う進路希望の傾向と対策を議論した。

- 4.1.4 副部長選出、役割分担、活動内容と計画の確認
- 4.3.0 全県一学区制の諸課題、県市委員会の設置内容の確認
- 5.2.2 県市連絡協議会1
- 5.2.9 県市合同委員会①
委員長・副委員長選出、趣旨と活動内容の協議
- 6.2.2 仙台市の進路希望の傾向と対策の論議1
- 6.2.5 県市合同委員会②
宮城県(仙台市を含む)の進路希望の傾向と対策の論議

8.1.0 仙台市の進路希望の傾向と対策の論議2

9.2.5 県市連絡協議会2

9.2.8 県市合同委員会③

宮城県(仙台市を含む)の進路希望の傾向と対策のまとめ

12.1.5 仙台市の進路希望の傾向と対策のまとめ

1. 7 全県一学区制の諸課題のまとめ

2. 4 校長会例会にてまとめの報告

2. 9 仙台青陵中等教育学校授業参観・経営方針等の説明、次年度の計画

5 提案事項の概要

(1)「南北学区間の動向と今後の推移」について

- ・南北学区間の撤廃により、南学区に中部北学区の生徒の志願者が増え、また、男女共学となる学校も志願者が増加すると考えられる。二華高、私立校なども含めて、数年間は学区撤廃による志願者の変化は続くと考えられる。
- ・南北学区の撤廃による志願者の変化を今後も注視する必要がある。

(2) 全県一学区制に伴う各校の進路指導の課題

- ・各校の進路指導は、生徒の特技・特性、関心・能力などを総合的に検討して判断し、全県一学区制に伴う志願数の変化に過剰に意識させることなく、生徒にそれぞれの個性を生かしたより良い進路決定を目指すよう、三か年を通じた進路指導が大切である。
- ・推薦制度の改善・見直しへの提言。
- ・小中の進路指導の連携を図る。

<教育課題部員>

部長	伊藤 芳郎	(三条中)
副部長	堀江 謙一	(南小泉中)
部員	八柳 善隆	(中田中)
部員	郷家 雄二	(六郷中)
部員	犬飼百合子	(生出中)
部員	小島 淑子	(中山中)
部員	佐藤 正道	(柳生中)
部員	井上 広明	(広陵中)
部員	渡辺 尚人	(仙台青陵中等教育)

研 修 部

部長 佐藤 淳

1 活動目標

- (1) 今日的な課題に即応した学校教育の改善を図るための研修の企画運営を行う。
- (2) 学校運営・経営に参考となる研修の企画を行う。

2 活動内容

- (1) 各種研修の企画と運営を行い、会員相互の研鑽を深める。
- (2) 例会時等の充実した研修の企画と運営を行う。

3 活動の概要

- (1) 4月14日(火) 第1回研修部会
 - ・副部長選出
 - ・活動目標、活動内容、活動計画の検討
- (2) 4月27日(月) 第2回研修部会
 - ・第1回研修会の内容確認、情報交換
- (3) 6月2日(火) 第1回研修会
講演 「人を生かす」
～障害のある人を雇用して30年～
仙台市PTA協議会会長 加藤 秀次氏
- (4) 6月29日(月) 第3回研修部会
 - ・研修会の内容・新会員研修会について
- (5) 7月2日(木) 第2回研修会
講演 「裁判員制度について」
仙台地方検察庁総務部長 遠藤 浩一氏
- (6) 7月24日(金) 第1回新会員研修会
「人事ヒアリング、学校運営等について」
講師 高橋副会長、大内総務部長
- (7) 8月25日(火) 第4回研修部会
 - ・研修会の内容について、情報交換
- (8) 8月27日(木) 第3回研修会
施設見学と講話 「電気エネルギーと環境教育」
東北電力(株)研究開発センター
環境試験室室長 坂本氏、研究主査 松田氏
- (9) 9月15日(火) 第5回研修部会
 - ・研修(情報交換)の運営について
- (10) 10月1日(木) 第4回研修会
「平成22年度の人事異動について」
仙台市教育委員会学校教育部教職員課
主幹 熊谷 祐彦氏
- (11) 10月16日(金) 第2回新会員研修会
「人事異動について」
講師 志賀野人事副部長
- (12) 11月17日(火) 第5回研修部会
 - ・アンケート集計、第5・6回研修会について
- (13) 11月27日(金) 第5回研修会
 - ・第60回全日本中学校長会研究協議会
福島大会分科会報告
 - ・第66回大都市中学校長会連絡協議会
千葉大会報告
- (14) 1月16日(金) 第6回研修会
「我が校の学校経営」行政区ごと情報交換
- (15) 2月4日(木) 第7回研修部会
 - ・行政区情報交換のまとめ
- (16) 2月4日(木) 第7回研修会
「自分づくり教育」実践発表
蒲町中学校長 渡辺 次雄氏
柳生中学校長 佐藤 正道氏
- (17) 3月3日(水) 第8回研修会
「年間の活動報告 ～各部より～」
- (18) 3月4日(水) 第8回研修部会
 - ・平成21年度反省、22年度計画立案
 - ・情報交換

4 課題

- (1) 研修内容と講師の選定、研修計画の調整に苦慮した。
- (2) 今年度実施した情報交換を含む研修等、一層実践的な内容を検討したい。

<研修部員>

部長 佐藤 淳 (台原中)
副部長 澁谷 代志子 (北仙台中)
部員 吉田 誠 (折立中)
部員 山内 正通 (向陽台中)
部員 門真 咲枝 (茂庭台中)
部員 齋藤 利章 (館中)
部員 高橋 弘二 (附属中)

人 事 部

部長 沼 田 茂 雄

1 活動目標

人事に関する課題の解明と適正化に努める。

2 活動内容

(1) 人事に関する調査を行い、現状と課題等を把握する。

- ① 職員構成
- ② 現在校勤務年数別人数
- ③ 新採用教職員配当状況
- ④ 人事に関する要望事項他

(2) 人事調整会の運営を行う。

- ① 人事調整会資料の作成
- ② 人事調整会の運営

3 活動概要

(1) 第1回部会 4月14日(火)

- ・副部長選出, 役割分担
- ・活動目標と内容の検討
- ・年間活動計画の立案

(2) 市中校長会例会 7月2日(木)

- ・「人事に関する調査」結果の報告

(3) 第2回部会 8月18日(火)

- ・「新しい転任方式に関する調査」の項目・内容の検討

(4) 新会員研修会 10月16日(金)

- ・人事異動関係研修

(5) 第3回部会 11月12日(木)

- ・人事異動事務についての確認
- ・「人事異動基本調査」の検討・作成
- ・人事調整会の運営方針の検討

(6) 市校長会例会 11月27日(金)

- ・「人事異動基本調査」の依頼

(7) 第4回部会 12月18日(金)

- ・「人事異動基本調査」の集計
- ・調整会の資料作成, 運営方法, 役割分担
- ・市教委との打合せ

(8) 臨時校長会(調整会)

1月7日(木) 於: ホテル白萩

(9) 第5回部会 3月3日(水)

- ・平成21年度部会の反省
- ・平成22年度の活動計画

<人事部員>

部長 沼 田 茂 雄 (宮城野中)

副部長 志賀野 博 (八乙女中)

部 員 渡 邊 次 雄 (蒲 町 中)

部 員 藤 田 潤 吉 (吉 成 中)

部 員 片 倉 景 範 (七北田中)

部 員 大曾根 眞紀子 (南光台東中)

部 員 橋 本 和 康 (松 陵 中)

情報部

部長 熊谷 繁

1 活動目標

- (1) 必要に応じて適切な情報を会員に提供し、また、資料の収集と保存に努める。
- (2) 広報業務の整理と仙台市中学校長会HPの管理・更新に努める。

2 活動内容

- (1) 仙台市中学校長会の広報活動を推進し、記録や報告を通して活動の理解と活性化に努める。
- (2) 仙台市中学校長会の広報活動に関する記録や報告のIT化を推進する。
- (3) 仙台市中学校長会HPの管理・更新を図る。

3 活動の概要

- (1) 第1回情報部会 4月14日(火)
平成21年度「情報部組織、活動目標、活動内容」の確認。副部長の選出。
情報部会開催日の確認。
- (2) 第2回情報部会 4月27日(月)
活動内容の確認。HP作成、及び更新コンテンツ等の作成研修。
仙台市中学校長会総会の記録及び役割分担。
- (3) 第3回情報部会 6月2日(火)
仙台市中学校長会HPの更新、コンテンツ等の作成。
- (4) 第4回情報部会 7月2日(木)
仙台市中学校長会HPの更新、コンテンツ等の作成。
- (5) 第5回情報部会 8月27日(木)
仙台市中学校長会HPの更新、コンテンツ等の作成。
- (6) 第6回情報部会 10月1日(木)
仙台市中学校長会HPの更新、コンテンツ等の作成。
仙台市中学校長会「紀要」編集計画の検

討。

- (7) 第7回情報部会 11月2日(月)
仙台市中学校長会HPの更新、コンテンツ等の作成。
- (8) 第8回情報部会 11月27日(金)
仙台市中学校長会HPの更新、コンテンツ等の作成。
仙台市中学校長会「紀要」原稿依頼。
- (9) 第9回情報部会 1月15日(金)
仙台市中学校長会「紀要」校正。
仙台市中学校長会HPの更新、コンテンツ等の作成。
次年度「活動目標、活動内容」等検討
- (10) 第10回情報部会 2月4日(木)
仙台市中学校長会「紀要」二次校正。
仙台市中学校長会HPの更新、コンテンツ等の作成。
次年度「活動目標、活動内容」等検討。
- (11) 第11回情報部会 3月3日(水)
今年度の反省と次年度の計画。
仙台市中学校長会「紀要」完成・配布。

4 その他

仙台市中学校長会「紀要」の発行については、平成19年度からCD化を行っている。

<情報部員>

部長	熊谷 繁	(鶴が丘中)
副部長	小野寺康一	(幸町中)
部員	永野 幸一	(八軒中)
部員	櫻井 健二	(東仙台中)
部員	佐藤 好一	(山田中)
部員	三浦 文道	(人来田中)
部員	桜井 重行	(根白石中)

行 財 政 部

部長 鹿 野 良 子

1 活動目標

- (1) 学校運営に関する課題の解明と適正化に努める。
- (2) 財務内容について検討し、経理を適正に執行する。

2 活動内容

- (1) 学校運営に関する調査を行い、提言・要望をまとめる。
- (2) 年間予算案を提示する。
- (3) 収入・支出状況の把握と中間決算報告を行う。
- (4) 決算報告を行う。
- (5) 財務内容について検討し、次年度の活動計画と予算案の作成を行う。

3 活動概要

- (1) 臨時校長会・総合部会
4月14日(火) 教育センター
・活動目標作成
・20年度決算と監査及び21年度予算案の作成
- (2) 仙台市中学校長会総会
4月27日(月) ホテル白萩
・20年度決算と監査報告
・21年度予算案の提案と承認
- (3) 行財政部会
5月27日(水) 教育センター
・学校運営に関する課題について
・会費及び負担金等の集金計画について
- (4) 校長会6月例会・研修会
6月2日(木) 教育センター
・全日中福島大会参加費集金
- (5) 仙台市中学校長会・仙塩地区高等学校長会連絡会
9月8日(火) ホテル白萩
・会費集金
- (6) 監査会
9月25日(金) ホテル白萩
・中間監査
- (7) 校長会10月例会・研修会
10月1日(木) 教育センター
・中間決算報告
・県栗原大会昼食費集金
- (8) 仙台市小・中学校合同懇親会
11月27日(金) ホテル白萩
・会費集金
- (9) 21年度決算見通しと22年度予算及び活動内容・計画の検討
12月15日(火) 校長会事務局
1月7日(木) ホテル白萩
- (10) 行財政部会
3月3日(水) ホテル白萩
・21年度会計執行状況提示
・21年度の反省及び22年度計画及び予算案検討
- (11) 監査会
3月11日(木) ホテル白萩
・21年度会計監査

<行財政部員>

部長 鹿野良子(加茂中)
副部長 後藤邦彦(二中)
部員 小嶋正敏(将監東中)
部員 藤森幸(寺岡中)
部員 村上涉(住吉台中)

生徒指導部

部長 藤代正倫

1 活動目標

積極的な生徒指導の推進と心の教育の充実
～生徒指導上の今日的課題の解明とその対策～

2 活動内容

- (1) 大都市特有の生徒指導に関する諸問題の調査研究
- (2) 関係諸機関との行動連携の強化
- (3) 学校間の連携と情報交換の緊密化
- (4) 特別支援教育の現状と課題について調査研究の推進
- (5) 家庭・地域との連携による生徒の安全対策の推進
- (6) 中学校体育スポーツに関する事項

3 活動の概要

(1) 第1回部会 4月14日(火)

① 正副部長の互選

部長 藤代正倫(仙台中)

副部長 尾形孝徳(岩切中)

② 活動目標、内容、組織の検討

③ 生徒指導主事連絡協議会、校外指導連盟の事業・計画

(2) 第2回部会 7月14日(火)

「仙台市青少年対策4機関・小中学校長会生徒指導合同会議」

(仙台市子供相談支援センター)

講話 発達障害と指導困難学級について

宮城学院女子大学 発達臨床学科

教授 白石雅一氏

(3) 第3回部会 7月31日(金)

仙台市小・中学校長会生徒指導合同部会

(研修会 ……ホテル白萩)

① 木村秀三 (上野山小)

提言「学校経営における生徒指導の今日的課題の対応について ～望ましい小・中学校の連携の現状～」

② 手塚健太 (袋原中)

提言「暴力・いじめ等の問題行動発生時の対応について ～子供の心を荒らさないために～」

(4) 第4回部会 1月22日(金)

① 各部生徒指導連絡協議会の持ち方

(5) 第5回部会 3月3日(水)

① 本年度の事業計画の振り返り

② 次年度計画の検討

(6) 生徒指導管外研修

11月19日(木)～20日(金)

19日 ○那須塩原市日新中学校視察

生徒指導総合連携推進事業について

○栃木県那須学園視察(児童自立支援施設)

20日 ○下野市立国分寺中学校視察

組織的な取り組みによる生徒の健全育成の推進

(7) 仙台市生徒指導主事連絡協議会運営

6月3日(水), 9月1日(火),

1月22日(金), 2月17日(水)

・全市、各部との情報交換

・関係諸機関との情報交換

・中総体、長期休業、入試対策

(8) 仙台市校外指導連盟運営

・校外での生活指導と事故防止対策

(水難事故, 交通事故, 繁華街での事故, その他)

・中総体期間中の事故防止対策

(対策本部設置…市内4ヶ所)

・危険箇所の確認と巡回指導 ほか

< 生徒指導部員 >

部長 藤代正倫 (仙台中)

副部長 尾形孝徳 (岩切中)

生徒指導主事連絡協議会全市部長

部員 高野仁士 (愛宕中)

仙台中教研生徒指導部会長

部員 布施俊雄 (七郷中)

仙台市校外指導連盟副会長

部員 三浦亮 (郡山中)

仙台市校外指導連盟監事

部員 手塚健太 (袋原中)

仙台市自殺対策連絡協議会委員

部員 新山弘幸 (沖野中)

いじめ問題対策懇談会委員

部員 阿部誠 (大沢中)

いじめ問題対策懇談会委員

部員 菅原賢二 (南光台中)

仙台市校外指導連盟会長

研究調查報告

創造的で特色ある教育課程の編成・実施の状況

—教育課程に関する調査結果の分析を通して—

校長会 研究部

I はじめに

生徒に生きる力をはぐくむために、創意工夫を生かし特色ある教育活動を編成し実施することは各校の責務である。

本研究は、教育課程編成に関係するアンケート項目を中心にその結果を分析し、数多くの改善策の中から、特に「創造的で特色ある」と思われる事例を抽出し、さらに事例の中の一部に関しては平成21年度に追跡調査を行い、実施後の状況を確認し、成果と課題についてまとめたものである。

本研究で紹介した各事例が、今後の学校経営の参考になるものと考え、「創造的で特色ある教育課程の編成・実施の状況」—教育課程に関する調査結果の分析を通して—という主題を設定した。

II 研究のねらい

- 1 「創造的で特色ある教育課程」をどうとらえるかを検討し、具体的な視点を設定する。
- 2 具体的な事例を分析し、その成果と課題を明らかにすることにより、学校経営の一助とする。

III 研究の内容と方法

1 アンケートの実施と分析

(1) アンケートの概要

① アンケート項目 (別紙資料)

② アンケートの実施

- ・ 調査日時：平成20年7月3日～7月14日
- ・ 調査対象：仙台市立中学校長 (63校)
- ・ 回収率：100%

(2) アンケートの結果 (複数回答)

調査項目「教育課程編成上の課題とその改善策」に関する回答の上位は以下の通りである。

- | | | |
|----|---------|-----|
| 1位 | 授業時数の確保 | 48校 |
| 2位 | 学力向上 | 20校 |
| 3位 | 学校行事 | 13校 |
| 4位 | 自分づくり教育 | 11校 |

調査結果からは、とりわけ授業時数の確保や学力向上を学校課題とし、その改善に向けて様々な

努力をしていることがうかがわれる。

集計は研究部において項目毎に分担して行った。

分析は各担当からの報告の後、全体で様々な角度から議論を行った。その後、各担当がテーマに沿った分析を行い、必要に応じて追加調査や具体的な事例等の情報収集を行った。

2 「創造的で特色ある教育課程の編成と実施」の捉え方

一般的に「創造的で特色ある」とは「新たに創りあげ、個性的で、より優れている」ものと考えられている。

また、学習指導要領によれば「教育課程の編成」の基本要素として、以下の3点が示されている。

- (A) 教育目標の設定
- (B) 指導内容の組織
- (C) 授業時数の配当

以上を踏まえ、研究部において検討を重ねた結果、「創造的で特色ある教育課程」の視点を以下のように押さえた。

「創造的で特色ある教育課程」の視点

- (A) 地域や学校の実態に即した教育目標の設定等に関して
 1. 新しい教育目標の設定について
 2. 教育目標達成に向けての校長の取組
- (B) 指導計画を作成し実践することに関して
 1. 校長としてのかかわり方
 2. 各教科の指導内容や指導方法の工夫
 3. 選択教科、特別活動、総合的な学習の時間等の指導計画及び実践に関する工夫
- (C) 授業時数の確保に関して
 1. 授業時数を確保するための工夫
 2. 週28コマ以外での運用の工夫
 3. 単位時間の授業を50分以外で実施する場合の工夫

IV 「創造的で特色ある教育課程」の事例

(A) 地域や学校の実態等に即した教育目標の設定に関して

1. 新しい教育目標の設定について

今回の調査で、教育目標を新たに設定した学校は1校のみであった。以下はその事例である。

○A 中学校の例

A中学校の教育目標は「学習習慣の確立」等、重点努力目標的なものであった。そこで、新たな学校教育目標の設定に向けて、以下の準備を始めた。

- ・生徒・教員・保護者へのアンケートの実施と分析
- ・創立30周年に制定された校訓の趣旨を生かすことの共通理解

以上の過程を経て、以下の3つの教育目標を制定した。(下線部は校訓)

新しい教育目標

- ・主体的に活動し、自立を目指す生徒の育成
- ・共に学び、生きる力を育む生徒の育成
- ・創意工夫により、将来を創造することができる生徒の育成

2. 教育目標達成に向けての校長の取組

教育目標設定に向け、校長は、組織マネジメント的な視点をどのように生かしたかについて、抽出・調査した。

以下はその事例である。

○B 中学校の例

B校では、人とのつながりが希薄で表現力に乏しい生徒の実態等を鑑みて、学校運営スローガンを「学校行事を通して心をつなぎコミュニケーション能力を高める教育活動」と設定した。

「心をつなぎ」「コミュニケーション能力」をキーワードとし、「学校行事」を通して育てていくこととした。校長は、生徒や学校の実態を捉えるために以下のことを実施した。

- ・自らの観察
- ・週1回の主任会からの情報収集
- ・学校評価の分析と活用

○C 中学校の例

C中学校では、「人とかかわる力」「コミュニケーション能力」をキーワードとして、その趣旨を全職員が共通理解しながら、プロジェクトチームを中心に教育課程を編成した。

以下は、教育課程編成の過程である。

- ① 職員を対象とした、生徒像に関するアンケートの実施と集計
- ② 結果をもとにした、生徒の実態と目指す生徒像についての話し合い
 - ・KJ法による分析
 - ・学力調査や生活調査等の結果分析
- ③ キーワードの作成
- ④ キーワードの共通認識の基に、その趣旨を生かしながら、次年度教育計画を各担当が作成

○D 中学校の例

D中学校では、学校評価(自己評価、学校関係者評価)の結果をもとに「学校改善に向けた実効策検討シート」(別紙参照)を開発し、次年度の教育課程の編成の際、改善策をより具体的に考え、実践した。

- ① 学校評価やアンケートの評価項目の吟味

(11月)

学校評価やアンケートの実施・集計 (12月)
評価結果をもとに改善策等の検討

(第1回検討部会)

- ② 「学校改善に向けた実効策検討シートその1」
作成のための各部検討会の実施 (1月)

(第2回検討部会)

- ・前半の部(教務部、生徒指導部、管理部)
- ・後半の部(研究学習部、保健安全指導部、事務部)

- ③ 「学校改善に向けた実効策検討シートその2」
作成のための各部検討会の実施

(第3回検討部会)

検討会では、話し合われた改善策一つ一つについて「なぜ」「誰が」「誰に」「何を」「どのように」「いつまでに」「予想される効果」「留意点」の各項目を検討し、一覧表にまとめた。

- ④ 各部会で検討された改善策等についての審議 (2月)

学校評議員5名、PTA役員4名から構成されている学校関係者評価委員会にて審議した。

なお、その際には、学校評価の集計・分析結果だけでなく、上記③の結果、次年度への改善策等が提示されたものを同じ用紙に記載した表を学校関係者評価委員に提示し、意見・感想等を記入してもらっている。

- ⑤上記④の結果を受け、職員会議にて協議して共通理解を図った上で、教育計画への展望を示し、各担当者が起案を作成した。(3月)

【成果と課題】

成果としては、以下の2点がある。

- ①教育目標の設定に関して、校長が学校の実態を多角的な方面から把握し、そこから抽出された学校課題に向けて経営方針や重点的な取組を構築していること、それを職員間で共有化していること、集団思考の手法を用いながら学校経営を実践していることなど、その過程が分かった。
- ②教育目標の設定や教育課程の編成過程の工夫が明らかになった。

つまり、具体的な取組はもちろん異なるが、職員一人一人が学校運営に当事者意識を持ちながら主体的に参画させていくために様々な工夫や仕掛けがあること、その結果、職員の集団凝集性や帰属意識が高まること、そして全職員が一つの方向に向かおうとする意識が高まってきたことなど、共通した工夫点が明らかになった。

課題としては、以下の2点がある。

- ①今後、教育目標がどの程度達成されたかを評価するPDCAサイクルによる評価計画を作成する必要がある。
- ②校訓と教育目標との関連をどのように図るのか、明確する必要がある。

(B) 指導計画を作成し実践することに関して。

1. 校長としてのかかわり方

校長として具体的な計画の作成にかかわることは少ない。そこで、計画作成に取りかかる前段階でどのようなかかわり方を行っているのかを抽出・調査した。以下は、その具体例である。

OE中学校の例

E中学校では、キャッチフレーズ(職員の合い言葉)を作成して、校長が先頭に立ち、活動全般への徹底を図った。

以下は、その過程である。

- ①キャッチフレーズ「ハートフルE中」の決定。
- ②キャッチフレーズをもとに、教育活動全般に「話し合い活動」を核とした活動を実践させ、高め合う学習集団の育成を図った。その際、校長からは、中心になる教員に活動内容について具体的な指示をした。
- ③キャッチフレーズのもと、その年度に取り組む重点領域を決定した。1年目は特別活動、2年目は教科、3年目は特別支援とし、実践した。
- ④Q-Uテストを導入し、その結果を学年会等で検討し、教科担当者の指導に生かした。
- ⑤SGE、PAの手法を取り入れた人間関係づくりを、道徳や特活で計画的に実施した。その効果を確認し、教科授業の中でもその手法を生かした話し合い活動を取り入れるように、校長が指示をした。

OF中学校の例

F中学校では、職員の自主的なアイデアを生かした学校経営を目指し、職員のプロジェクティブ型の委員会を起動させた。

以下は、その取組状況である。

① 運用の仕方

アイデアを持った教師が職員に呼び掛け、プロジェクト委員会を発足させ、検討結果を職員会議に提案し、賛同を得た企画を実行していく。プロジェクトは発足も解散も自由で構成員を固定せず、職員の創造性と切磋琢磨による学校の活性化をねらったものである。

② プロジェクトの型

1) プロジェクトA

分掌のチーフが中心となり企画立案する型。

2) プロジェクトB

既存の枠組みの分掌を超えて、アイデアを持った職員が主体的に企画立案する型。

③ これまで立ち上がったプロジェクトの例

1) プロジェクトAの例

通信表プロジェクト、評価プロジェクト、授

業アンケートプロジェクト、年間行事プロジェクトなど。

2) プロジェクトBの例

生徒会パフォーマンスコンテストプロジェクト、部活動プロジェクト、スポーツ大会プロジェクトなど。

OG 中学校の例

教育課程編成の前に、学校全体の実態等を把握し、校長から例えば次のような指示を出すことで特色ある教育課程の編成を実施することとした。

- ・学習前の環境の整備
- ・学力向上の前に道徳教育の充実
- ・学級づくりのための調査
- ・学力向上時間の特設

OH 中学校の例

教育課程の編成にあたり、校長は、職員の共通理解、取組に対する意欲の差の解消を図るために、次のような構想を示し、実践した。

- ①学校教育目標が目指す理想の生徒像について、生徒の現状（良い面、課題）の調査（全職員）
- ②集約結果をもとに、全職員で理想の生徒像に近づく方策に関する話合いの実施
- ③プロジェクトチームを立ち上げまとめの作業
- ④次年度へ向けての目標の設定
- ⑤目標を受けて、次年度計画の立案

OI 中学校の例

教育課程の編成、とくに授業力の向上を目指して校長として、次のような方策を図った。

- ①研究授業の教科について近隣中学校長（教科が専門）の参観及び指導・助言の依頼
- ②大学の研究室と連携し、教授に指導計画、授業参観と指導・助言の依頼
- ③教員OBに授業についての指導・助言の依頼（週1回程度）

【成果と課題】

成果としては、校長が先頭に立ち、リーダーシップを発揮し、様々な取組に関して具体的に助言すること、外部と交渉すること、環境整備をすることなど、教師集団が意欲的になる。またプロジェクト型

の委員会を発足させることで、教師の主体性を刺激し、創意工夫を引き出すことができた。その結果、教師集団が、自分たちで考え行動するようになり、実践の深まりにつながった。

課題としては、以下の4点である。

- ①教職員に研修を継続・持続させるためのさらなる工夫
- ②教職員の負担を軽減する研修の環境作りの推進
- ③全職員の研修意欲をさらにかき立てる工夫
- ④学校力、教師力の向上に対する校長の働きかけの検討

2. 各教科の指導内容や指導方法の工夫

指導内容そのものに関しては、学習指導要領に示されており、特に工夫したという事例は見られなかった。

しかし全国学力調査、仙台市の標準学力検査の結果をもとに、基礎的な学力の定着・補充を中心とした以下のような取組が見られた。

- ①全国学力調査、仙台市標準学力検査の結果を指導計画の見直しに活用
- ②結果をもとに各教科で重点項目を設定し、指導方法の改善に取り組み、5教科の選択授業で補充を中心に実施

指導方法の工夫としては、少人数指導・TT指導の充実（30校）があげられる。その中で、数学と英語における習熟度別学習形態を取り入れている学校（8校）がある。

OJ 中学校の例

数学の少人数指導に関して、昨年度の均等分割の指導法では効果が十分ではなかったため、校長は、習熟度別指導を導入し、計画を作成するように指示した。

【成果と課題】

成果としては、校長が現状をしっかりと認識し、職員に十分理解させた上で、指導体制を改善することは、生徒の学力の向上に直結することが明らかになった。

課題としては、以下の2点である。

- ①校長による現状把握と効果的な校内体制の構築
- ②生徒の高まった学力をさらに向上させようとする職員の意識の維持

3. 選択教科、特別活動、総合的な学習の時間などの指導計画及び実践に関する工夫

選択教科、特別活動、総合的な学習の時間などの工夫の事例である。

OK中学校の例（選択教科）

2年選択音楽において篠笛に取り組んでいる。週一時間、地域の保存会の方を講師に迎え、技術指導を依頼している。

OL中学校の例（選択教科）

2・3年の選択教科の一部に、地域の人材や保護者を外部講師として講座を設定し、地域の伝統芸能（剣舞、和太鼓）や日本の伝統文化（藍染め、茶道）を学んでいる。

OM中学校の例（総合的な学習の時間）

小規模校の良さを生かし、学年の枠を外した活動を行っている。テーマ毎に仲間を募り、調査研究などを行っている。その一つとして伝統芸能の継承をあげ、地域の保存会の方を講師として「鹿踊・剣舞」に取り組んでいる。

ON中学校の例（総合的な学習の時間）

総合的な学習の体験的学習の一つに「身近な環境と自分」というテーマを設定し、地域や保護者の協力を得ながら、開校10周年を記念してつくった「10周年の森」を活用している。

OO中学校の例（学校行事・生徒会）

体育祭の一切を生徒（生徒会・体育祭実行委）が自主的に運営する行事を実施している。縦割りによる集団活動で、3年生が中心となって中学校最後の行事を成功させようとする取組が伝統となっている。

OP中学校の例（小・中連携）

中学校の教員が小学校で指導（数学・理科・体育）し、小学校の教員が中学校で指導（道徳）を

行った。また、児童会・生徒会の交流や生徒による中学校の説明会などを実施した。小・中教員の交流が図られることで情報交換が以前よりスムーズに行われるようになり、中1ギャップの解消にも役立っている。

【成果と課題】

成果としては、以下の3点である。

- ①地域についての理解が深まり、地域の歴史を学習しようとするなど地域とその文化を尊重しようとする意識が向上している。
- ②地域の講師から学ぶことにより、地域に対する愛着が増した。また校内発表だけでなく、地域の行事等に参加して発表することによって地域と学校の交流推進が図られている。
- ③小中連携では、「授業や研修などの相互交流」「児童・生徒の交流（相互理解、中1ギャップの解消）」「教員同士・学校間の情報交換」が有効である。

課題としては、以下の3点である。

- ①「これらの学習活動は、学校の生徒や教職員だけではできない活動であるという認識が必要である。地域との連携、地域の人材の活用、PTAの理解と支援など、組織的な取組・連携に配慮した計画・実践が必要である」との意見のとおり、校長として学校全体の教育活動を見直し、教育課程の中にどのように位置づけ、実践していくか。
- ②新教育課程において選択教科が削減されることに関して、「活動内容の精選と合理化」「具体的な取組や方向性」等の検討。
- ③小中連携に関しては、小中合同の話し合いの時間の確保、中学校の教員が小学校の授業に出向くための時間の確保等。

(C) 授業時数を確保するために

授業時数の確保に関して、以下のように様々な取組が行われている。

1. 授業時数を確保するための工夫

- ・長期休業中の授業実施

（夏季43校、冬季9校）

- ・巻紙方式の時間割 (2校)
- ・行事の工夫, 精選 (2校)
- ・会議の精選 (1校)

2. 週 28 コマ以外での運用の工夫

- ・週 29 コマで運用 (11校)
- ・週 30 コマで運用 (8校)
- ・1日7時間(3年生のみ2学期以降)(1校)
- ・45分7時間の実施 (1校)

3. 単位時間の授業を 50 分以外で実施する場合の工夫

- ・モジュールによる対応 (31校)
- ・45分7時間の実施 (1校)

○Q中学校の例(45分7時間)

校長が授業時数の確保, 学習効率の向上, 給食時間の開始時刻を早める等の観点で, 構想を練った。市教委に確認したところ, 実施可能であることが分かり, 準備に取りかかった。様々な場合を想定した上で, 実施に踏みきった。

要点は以下の通りである。

- ・45分授業で週 33 コマ 7 時間の日が 3 日
- ・7時間目は全て総合的な学習の時間とする。
- ・50分 28 コマより 1 週あたり 85 分上回る。
- ・増えた時数は 5 教科を中心に増やす。
(英語と数学週 4 コマ, 他 1 コマ)
- ・授業の長さより回数を多くすることで, 学力の定着を図る。

【考察】

長期休業中の授業は, 市内ほとんどの学校で実施されている。今年度は, 3年生のみ実施する学校が 22 校, 長期休業中の授業日が他学年より 3年生が多い学校が 13 校あり, 市内約半数の学校が 3年生の授業時数確保を目指したものとなっている。長期休業中の授業実施は, 授業時数確保及び学力の定着や向上を目指した取り組みとして, 今後も拡大するものと予想される。

週の授業時数について, 昨年度週 30 コマでの運用は 3 校であったが, 今年度は 8 校に増えている。新学習指導要領の全面実施を視野に, 週 30 コマの運用も増加するものと思われる。そうした中で, Q

中学校の例は校長のリーダーシップのもと 45 分 7 時間を実施した例であり, 特色ある教育課程の編成と実施に向けての校長のかかわりとして注目に値する。

モジュールについて, 今年度実施している学校(31校)は主な理由として, 授業時数の確保, 基礎・基本の定着をあげている。一方, 昨年度までは実施していたが今年度から止めた学校(実施していない学校 32 校中 21 校)の主な理由を見ると「夏季休業中の授業で授業時数を確保できた」「内容を吟味しないと成果がない」等の理由があげられた。

モジュールの運用について, そのねらいと効果についての検証が必要であることが課題として浮き彫りとなった。

V おわりに

教育課程の編成にあたっては「地域や学校の実態および生徒の心身の発達や特性を十分に考慮して」とある。今回抽出した各校の事例は, それぞれの学校が地域, 学校, 生徒の実態に応じて「創造的で特色のある教育課程」を編成し実践したものである。その編成過程や実施状況, そして実施後の評価等は, それぞれ示唆に富んだものである。

各学校の今後の教育課程編成に際して, 今回取り上げた事例が役立つことを願うものである。

題字 仙台中中学校長会長 青沼 一民 筆

発行 平成22年3月1日

発行者 仙台中中学校長会
会長 青沼 一民

編集者 仙台中中学校長会
情報部会